

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：市民参加（1）	
日付：11月23日（月）曜日、セッション時間：9:00～10:30	
司会者名（所属）：青木俊明（東北工業大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>本セッションでは、「住民参画方式を活用したコミュニティ・バスの運用方法」について3つの事例が紹介された。</p> <p>セッション全体を通じて、住民協議会が決定結果に対して持つ責任範囲や参加者の代表性について多くの議論が行われた。重要な議論としては、意思決定権を持つ行政の下に専門家委員会が設けられ、さらにその下にワークショップや住民協議会が設置され、そこで住民意見を汲み上げる仕組みの重要性が述べられた。その際、協議会等に参加していない住民にも情報が伝わるような仕組み作りが重要であることもあわせて述べられた。</p> <p>最後に、司会者から事例の蓄積を今後も続けながら、俯瞰的な立場から一般的な知見を抽出することと、事例の位置づけを明確にすることが重要であるとの意見が述べられた。</p>
	<p>（273）発表者名（所属）：福本雅之（名古屋大学大学院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表された事例の詳細な特徴について質疑が行われた。 ・著者からの論点として挙げられた、「住民が公共交通の運営に参画する際の動機付け」と「その際に組織化される条件」については、前者についての具体的事例が紹介フロアより紹介された。 ・上記論点は多くの研究を集めてメタ分析等を実施することにより、知見を整理できることが司会よりコメントされた。
	<p>（274）発表者名（所属）：川崎剛一（大阪市立大学大学院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著者からは、官民共働方式を用いながら、コミュニティバスの運行の仕方について協議した過程が紹介された。 ・参加者のコミュニティ代表性について質疑が行われた。 ・参加者の代表性を担保する組織のあり方や情報開示のあり方についても質疑が行われた。
	<p>（275）発表者名（所属）：高妻由香里（宇都宮大学大学院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著者からは、コミュニティバスの導入に関わる住民協議会における協議内容と分析対象となったバス路線の需要推計の結果が紹介された。 ・決定結果と住民参加方式に参画した住民の責任範囲について質疑がなされた。 ・需要推計の結果が住民の士気を高めることについて質疑がなされた。 ・協議会に参加する住民の負担を軽減しない場合、プロジェクト期間の最後まで住民のモチベーションが継続しないことが紹介された。